

「香港中文大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部 4年 櫛引実秀

①学習成果（今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど）

今回の香港留学では、香港は同じ中華圏といえども、中国とも台湾とも違った文化・風習を持つ異なる土地なのだということを改めて、また実感をもって学ぶことが出来ました。決して広くはない土地に700万人もの人が住むため、街中至る所で活気があふれています。夜には林立する高層ビルがライトアップされて、本土と香港島で挟まれた海に行き交うフェリーが照らし出されており、海洋都市の名に恥じない姿を見せてくれます。現地の言葉である広東語は普通話（マンダリン）ともまったく異なり、街や駅でそれを耳にするたび、言葉がそのまま異国情緒そのものとして感じられました。

今年度の参加者で日本以外から来られた方は、アメリカ、イギリス、フランスなどの西欧圏、また韓国、タイなどのアジア圏など多岐に渡りました。このため、メンバー同士で交流するためには英語が不可欠です。授業の後、時間があれば街へ出かけたり、広大なキャンパス内のグラウンドでサッカーをしたり、中国語以外に英語を話すいい機会になったと思います。

また、香港中文大学の学生たちは、英語をとっても流暢に話します。もし英語の運用能力を高めていれば、もう一歩進んだ交流ができたであろうとも思いました。この経験があったからこそ、帰国した今、英語に対する学習意欲が燃え上がっています。

②海外での経験

到着してからは学校主催のオリエンテーションがあります。香港中文大学の学生にサポートして貰い、貸し切りバスで市内を周遊します。これで香港の市街を大まかに把握できました。また、土曜日には日帰りツアーでマカオ、中国広東省の深セン（シェンチェン）に行くことができます。マカオではポルトガルに支配されていたので、中心街には洋風建築が並び立ち、香港とは違った雰囲気を感じました。また、深センは中国の経済特区であり、発展のエネルギーをひしひしと感じ取ることができます。

③プログラム内容

授業は4クラスに分かれて行われます。事前に提出する課題に従ってクラスが決まりますが、初めの数日で自分に合わないと思えば、クラスを移ることもできました。先生はみなさん中国語が母語の方で、授業の質も高く、グループワークも多く取り入れられ、クラスごとの団結も深まりました。

キャンパスは山にあり、移動は学内バスで行きます。キャンパス内には充実した運動施設がありました。テニスコートやサッカーグラウンド、バスケットコートにプールといった施設がほとんど無料で使用することが出来ます。また、食堂も各寮に設置されており、メニューや味も一つとして同じものはありません。学内の食堂を食べ歩いてみてもいいかもしれません。

また、寮に関してですが、私たちが宿泊した和聲書院は大学内で最も新しい寮であり、内装も清潔な2人部屋に泊まることができました。

④進路への影響

就職活動の中で、中国語を使って働きたいということを内定先の会社にずっと伝え続けていました。このため、大学のプログラムを利用して自分の中国語をブラッシュアップしようと思っていました。留学を通して、使用語彙も増え、中国語を話す抵抗感もなくなり、最終目標でありHSK6級取得に向けて大きく前進しました。他にも、英語学習の必要性をひしひしと感じる今、学生の間で英語留学をすることに決めました。

このプログラムを終了するにあたり、後方で多大なる支援をくださった国際交流センターの方々、またジョン万次郎プログラムの奨学金を支給して下さいました大学の方々に深く感謝しております。本当にありがとうございました。